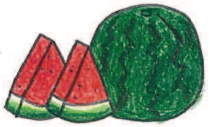
法親寺新聞



2013年 お盆号
手書き新聞No.8

浄土真宗のお盆は、迎え火や送り火を焚いたり、きゅうりやなすで馬や牛を作って供えたりする必要はありませんし、先祖の霊がお盆だけあの世からこの世へ帰ってきて、またあの世へ帰っていくこともありません。亡き人は仏となって迷える私達を救い、常に正しい道へ導こうと見守ってくれています。決してお盆の期間だけ帰ってくるのではないのです。お盆は、そんな亡き人をお浄土に導いてくださった阿弥陀様に感謝をし、いつも見守ってくれている亡き人の遺徳を偲ぶと共に、私もいつかはお浄土に参らせていただく身にあることを改めてあじわう期間にしたいですね。「南無阿弥陀仏」と感謝のお念仏をする心を大切に仏縁を深めましょう。

住職の法話…

皆さん、こんにちは。暑い日が続きますが、お元気でお念仏されていますか。
さて、お盆がやってきました。お盆と言えば、お盆休み、帰省、お墓参りと連想されます。当時の墓地にも車が渋滞する程の方がお墓参りに来られます。「浄土真宗の教章」の『教義』に《阿弥陀如来の本願力によって信心をめぐまれ、念仏申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還って人々を教化する。》とあります。仏様となられた先祖様が、迷いの世に還って人々を教化するとは、皆さまがお墓参りされているお姿そのものなのです。墓前で私の称える「南無阿弥陀仏」となって先祖様は迷いの世に還ってくださるのです。ただ如来様に救われ仏様となられた故人は、お盆しか還ってくることのできない仏様ではありません。いつでもどこでも私が称える南無阿弥陀仏となって還って来てくださるのです。迷いの世に還って人々を教化するとは、迷いの世にいるあなたが如来様の救いの中にあることを仏様になられた先祖様はあなたに伝え教えているということです。先祖様の導きにあなたが応えていくことが供養なのです。
浄土真宗のお墓参りは慰霊や追善供養のお参りではありません。仏様となられた先祖様から常に見守られていることへの感謝のためのお墓参りでなければなりません。墓前で「南無阿弥陀仏」とお念仏申しましょう。

4月27日

春季永代経法座
●講師●
黒田真隆先生

永代経法要では、お参りの皆様と共に「仏説阿弥陀経」をお勤め致しました。
黒田先生のご法話では、昔から国民に愛されている名曲を先生の素敵な歌声とともに、仏教との関係性を織り交ぜてお話して頂きました。昔から変わらない阿弥陀様の本願力を改めて感じる事が出来ました。

7月13日

お盆法座
●講師●
佐々木大觀先生

初盆の方々の法名を読み上げて、全員で「仏説阿弥陀経」をお勤め致しました。佐々木先生のご法話では、お寺でご聴聞する大切さや「南無阿弥陀仏」の有り難さ、亡き人は仏になって今何をされているのかなどを分かりやすく伝えて頂きました。浄土真宗は「聞法」を大切にしています。法を聞かせて頂く事で日々の大切さに気付くのです。

犬島

近代化産業遺産である銅製錬所の遺構を活用した「犬島精錬所美術館」建築は、直島にも作品がある三分一博志さん。

民家の中にポンッと現れる作品。「コンタクトレンズ」自然と作品がマッチしています。

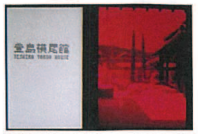
直島

「ベネッセハウスミュージアム」や「李禹煥美術館」、「南寺」などの美術施設を設計してきた安藤忠雄さんのミュージアム。模型や写真があって、分かりやすいです。ここで本やポストカードを買うと直筆サイン付きでした!!

私が直島で1番好きなカフェ。「Cin・ha・mon」(シナモン)さん。オムレツカレーはチーズ入りでとても美味しいですよ。

豊島

一番行きたかった「心臓音のアーカイブ」3万人以上の人の心臓の音が聴けます。私も自分の心臓の音を録音して作品に参加できました!CDにして持って帰れますよ。



横尾忠則さんの美術館。「死があるから生がある」を考えさせられる作品なので私達にも身近ですよね。

「いちご家」さんのかき氷。イチゴ農家が作ったおいしいイチゴの手作りシロップ。大きくて、ふわふわです!

豊島は芸術祭の島の中でも広いので、1日かかってまわります。私は電動自転車をレンタルしましたが、2人乗りの小さな車のレンタルもあるので楽々芸術祭を楽しめますよ。夏は特に海や山が綺麗です。

6月7日

仏教婦人会総会
&研修会(写経)
●講師●住職

勤行、仏教婦人会綱領唱和。市原会長の挨拶、住職の挨拶と法話に引き続き、会計の篠原さんより、平成24年度決算報告が説明され、全員一致で承認されました。続いて兵庫教区、岡山南組の仏婦連盟の報告がありました。この日の研修は、楽しみにしている方も多かった写経(書いて味わう讃仏偈・重誓偈)を心静かにお経の意味を味わいつつ行ないました。

おしえて住職 Q&Aのコーナー

Q… 真宗の宗徒は何故門徒と呼ばれるのですか?

A… 宗祖親鸞聖人は、混迷した世の中で共にお念仏を喜ぶ仲間を「御同朋・御同行」と呼び、苦悩する人々とともに互いを敬愛し、み教えをまもり広めていこうと努められました。また聖人は、念仏者は世俗の地位や男女、年齢などのあらゆる違いをこえて一切が平等であり、友であると言われました。門徒とは、もともと『一門の徒輩(ひとつの宗門の仲間)』という意味なのです。私たち念仏者は、阿弥陀様のお慈悲に守られた迷信にとらわれない生活を送らせていただきましょう。二度と来ないその日「一日一日」を大切に過ごしていきたいですね。

お知らせ

注:樒里蓮

秋季永代経法座
●日時●平成25年10月10日(木)
午後1時~3時頃まで
●場所●法親寺本堂
●講師●住職

※お車は、隣接駐車場及び、臨時駐車場へご駐車下さい!!